

# 中国の環境ガバナンスにおける重金属汚染報道の課題と展望 —「人民日報」、「中国環境報」、「南方都市報」の比較分析からの考察—

YANG RUITING

グローバル化の進展を伴い、現在の中国社会では、著しい追い越し型の近代化が進行中である。一方で、中国は世界からも注目される経済成長を達成する反面、これらが深刻な環境問題をもたらしてきた。深刻かつ複雑な環境問題に直面し、その改善に向けて、中国では、政府が主導する環境ガバナンスの状態が長期的に継続しているがゆえに、市場や社会の役割は弱体化するようになった。近年、社会的「協治」が唱えられることをきっかけとして、環境問題においても、政府、市場および社会の各主体による多元的環境ガバナンスを構築することが重要となると考えられる。

そこで本論文では、近年中国において非常に深刻かつ事件・事故性を持つ重金属汚染問題に着目し、多元的環境ガバナンスの視座から論じることを試みた。特にメディアは、一般市民にとって、情報を得る重要な手段であり、様々な社会的主体との間の「橋渡し」の役割を果たしているため、環境問題が深刻になった中国社会において、特にメディアは、なくてはならない存在になると考えられる。したがって、本研究では、伝統的なメディア、すなわち「新聞」に焦点を当て、重金属汚染に関する報道内容を分析し検討を深めた。

まず、第二章では、中国における環境ガバナンスの歴史的変遷およびそのプロセスを把握しつつ、現状の中国の環境ガバナンスの特徴を明らかにした。また、対象として着目する重金属汚染に関する法律・規制の動向を整理しつつ、近年の中国における重金属汚染の現状を述べた。さらに重金属汚染報道をめぐる既存の研究を精査しながら、新たな課題や掘り下げるべき視点を抽出しつつ、環境ガバナンスの視座から重金属汚染報道を分析する意義を導き出した。

以上を踏まえ、第三章において、2000年から2018年までの「人民日報」、「中国環境報」、「南方都市報」における重金属汚染報道に対し、内容分析に基づき比較検討を行った。内容分析は、メディア研究の代表的な手法であり、表出されたコミュニケーション内容の客観的・体系的・数量的記述のための調査手法である。それらの分析結果を踏まえつつ、情報源や報道内容などの比較を通じて、「人民日報」は政府・政策を宣伝しながら報道すること、「中国環境報」は専門性を保持しながら報道すること、「南方都市報」は多様・多元的視点から報道することが明らかになった。さらに本研究の主眼とする環境ガバナンスに関連する政府、企業および市民に呈示された状況も示すことができた。

さらに第四章では、2000年から2018年の重金属汚染事件の関連記事を抽出し、前章と同様に、内容分析法を用い、関連記事の件数、掲載紙面、ジャンル、情報源という4つのカテゴリーに分け、三紙における汚染事件報道の特徴を比較した。ここでは、環境ガバナンスにおける主体の関係性を検討できる計量テキスト分析に基づき、環境ガバナンスの各主体間に存在する連関性、汚染事件に対する報道の力点を明らかにした。さらに、2013年に発生した「カドミウム米」事件を取り上げ、各紙の社説を中心にして、記事そのものに対する分析を行った上で、数年間の汚染事件における三紙の報道姿勢を具体化した。

本論文の結論として、終章では、近年の重金属報道の変容と、重金属汚染に関する新聞報道の機能と限界について総括し、多元的環境ガバナンスの視座から重金属汚染に関する新聞報道を再検討することを試みた。重金属汚染報道の限界に鑑み、今後の展望として、環境情報の開示の手段を多様化すること、報道の情報源を豊かにすること、市民の発言権の割合を上げること、並びに新たなメディアと社会的各方面の協治が求められ、また多元的環境ガバナンスの構築のあり方を明らかにしていくさらなる研究が期待された。(環境行動学)